

ハイゲインMM、MCイコライザーアンプ

Proxima SE-5000 価格 378,500 (税込)



本機の概要

アナログの音は「柔らかく自然な音」ということで、未だに支持される方が多いですが、SE-5000に関しては「柔らかく」という表現は必ずしも適切とはいえません。ソースによってはデジタル以上に厳しく、インパクトのあるストレートな表現をいたします。(例えば、テープ録音とダイレクトカットティングのものでは顕著な差が出ます！)

情報量が極めて多いSE-5000では、古いアナログ盤から、かつて聴いたことのない音が甦ります。

本機の特長

◎単一のスーパーハイゲインアンプによるシンプルな構成

1kHzで140dB以上というハイゲインアンプによりMCモードでも余裕があり正確なフィードバック特性を得ています。複数アンプによる増幅&伝送ロスが無く「鮮やかでリアルな音！」です。

◎オール半導体方式

トランス類を通さない「オール半導体方式」で、MM、MCはゲインを切替えて使用いたします。トランスレス最大の特長は情報量の多さです。針音に埋もれてしまうような微細音の再現に際だった差が生じます。

「原音再生」を目指してきた弊社としては、トランスレスがひとつの「結論」です。

◎カップリングコンデンサーレス

MCモード時も一切コンデンサーを通さないDCサーボ方式。

さらにDCサーボ部も音質に対する影響が無視できないため、ここにも高音質のCR、アンプを多用しました。

◎各部材へのこだわり

◆音質の鍵を握るイコライザー素子には、独自開発のスケルトンC、Rを採用しました。エポキシ等の外装による音の混濁感がありません。さらにニゴリ感を減らすため、電解コンデンサーも総て外皮を剥いて使用しています。

基本アンプユニットは信頼性アップのためモジュール化していますが、本機には音の良い厚手和紙製のケースを採用いたしました。

電源トランスは余裕のあるカットコアトランス、配線材は手作り綿外装7N銅線を使用するなどの徹底ぶりです。

◆ケースへのこだわり

アナログアンプの音はケースの材質に大きく左右されます。本機では、コストと手間が掛かるものの音の良いウッドパネルをベースとしました。(フロント、リアはアルミ製)

各ウッドパネルはシールドと音質チューニングを兼ねる特殊導電シートで裏打ちしています。

その他の特長

◎使用カートリッジに合わせて、スイッチひとつで入力R、Cを幅広くセレクト出来ますが、補助入力（INPUT-2）にC、R（プラグ）を挿すことで、ユーザーサイドで自由に定数、パーツ（品種）を選ぶことが可能です。（CRプラグの特注にも応じます）

基本入力Rは 10, 100, 33k, 47k, 100kΩの5段階

基本入力Cは 100, 220, 470pFの3段階の中から選べます。

◎電源に別個のアイソレート（シールド）トランスを使うのと同等の効果がある、“EARTH”専用端子付き。ルーム内の適当なアース端子に繋げることで、S/N感、音像感がさらに改善されます。

【本機の仕様】

印刷用資料は[こちら](#)

- ◎ゲイン@1kHz 約40dB (MM) 約66dB (MC)
- ◎適合カートリッジ 定格出力 0.2mV以上の製品
- ◎左右chゲイン差 0.5dB以内
- ◎RIAAイコライザー偏差 ±0.5dB以内 (20~20kHz MM、MC共)
- ◎入力換算ノイズ 約-146dBV (JIS-A MC時) ・・・・2010/7改
- ◎最大出力電圧 約9Vrms
- ◎出力抵抗値 200Ω
- ◎最少負荷抵抗値 1kΩ
- ◎電源仕様 100V (50, 60Hz) 約10W
- ◎本体寸法/重量 92H×430W×340D/約5kg